

寿命延伸とともに担おう

弘大医学部新入生と知事懇談

弘前

三村申吾知事が弘前大学医学部新入生に、卒業後の県内就業・定着を呼び掛ける懇談会が10日、同医学部で開かれた。三村知事は、本県男性の健康寿命の延びが全国一であることや、同大の健康増進研究を紹介し「寿命革命の研究をできるのが弘大」「熱い思いの医師が君たちを支える」と、新入生112人にアピールした。

三村知事は、本県の平均寿命は男女とも全国ワーストだが、2010年から16年までの健康寿命(健康上

の理由で日常生活が制限されることのない期間)の延



弘大医学部新入生に「本県の医療を頼むぞ」と呼び掛ける三村知事(手前左)

びが、本県男性が全国1位、女性が7位であることを紹介。また、ビッグデータを活用して健康施策を展開する弘大のCOI事業で成果が出ていることを説明し、世界の人の命を救える研究をやってほしいと強調した。

また、県内の医師は増えているが、全国と比較していまだに不足していることや、医師数の地域偏在があることも指摘。医師として成長するための支援プログラムや、地域医療を体験

できる実習制度を整えていることを説明し、県内就業を呼び掛けた。

意見交換で、知事と同じ八戸高校出身の男性新入生は「医療を充実させる県の取り組みに自分も参加したい」、神奈川県出身の女性は「地域の人が温かいと感じる。地域医療に携わりたい」と知事の熱意に打たれた様子で語った。

(菊谷賢)